

第3期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画  
ハチピープラン策定に係る調査報告書

令和6年3月  
近江八幡市

# 目次

<b>I 調査の概要</b>	<b>1</b>
1. 調査の目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査期間	1
4. 調査方法	1
5. 回収状況	1
6. 調査結果の表示方法	1
<b>II 調査結果のまとめと課題</b>	<b>10</b>
1. ニーズ調査のまとめと課題	10
2. 生活実態調査のまとめと課題	10
3. 貧困対策に関する調査のまとめと課題	10
<b>III 調査結果</b>	<b>20</b>
1. 保護者を対象とした調査	20
①ニーズ調査	20
お子さんと家族の状況について	20
保護者の就労状況について	20
育児休業制度など職場の両立支援について	20
お子さんの幼稚園・保育所（園）子どもセンターなどの利用について	20
不定期や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	20
お子さんの病気等の時の対応について	20
「こども誰でも通園制度（仮称）」について	20
「放課後児童クラブ」等の利用について	20
放課後の過ごし方について	20
子どもの権利について	20
子育て環境について	20
②生活実態調査	30
暮らしの状況について	30
日々の子育てについて	30
③貧困対策に関する調査	40
暮らしの状況について	40
お子さんとのかかわり方について	40
お子さんの将来について	40

<b>2. 児童、生徒を対象とした調査</b>	<b>50</b>
①ニーズ調査	50
あなたのことについて	50
②生活実態調査	60
あなたのことについて	60
あなたのふだんの生活について	70
放課後児童クラブ（学童保育）について	50
あなたが幸せに生活するために大切なことについて	60
近江八幡市について	60
③貧困対策に関する調査	70
あなたのふだんの生活について	70
将来について	70
部活動・地域クラブ活動について	70
<b>3. 子ども・子育て支援に携わる団体、学校園を対象とした調査</b>	<b>80</b>
①貧困対策に関する調査	80
所属団体、学校園について	80
困難な家庭の子どもの状況について	80
支援活動の課題と今後の取り組みについて	80
<b>IV 資料編（調査票見本）</b>	<b>90</b>

# I 調査の概要

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

「第2期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画ハチピープラン」が令和6年度に計画期間が終了することに伴い、「第3期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画ハチピープラン」の策定に向け、本市の子育て家庭の状況や意向等を把握するための調査・分析を実施し、次期計画策定のための基礎資料とするために実施しました。

## 2. 調査対象

- ①就学前児童がいる保護者
- ②小学生児童がいる保護者
- ③市内小学校に通う小学3年生の保護者
- ④市内小学校に通う小学3年生
- ⑤市内小学校に通う小学5年生の保護者
- ⑥市内小学校に通う小学5年生
- ⑦市内中学校に通う中学2年生の保護者
- ⑧市内中学校に通う中学2年生
- ⑨市内の子育て支援団体等
- ⑩市内の保育所・幼稚園・認定子ども園・小学校・中学校・高校

## 3. 調査期間

- ①就学前児童がいる保護者
- ②小学生児童がいる保護者

・令和5年12月19日(火)～令和6年1月5日(金)

- ③市内小学校に通う小学3年生の保護者
- ④市内小学校に通う小学3年生
- ⑤市内小学校に通う小学5年生の保護者
- ⑥市内小学校に通う小学5年生
- ⑦市内中学校に通う中学2年生の保護者
- ⑧市内中学校に通う中学2年生

・令和6年1月10日(水)～令和6年1月23日(火)

- ⑨市内の子育て支援団体等
- ⑩市内の保育所・幼稚園・認定子ども園・小学校・中学校・高校

・令和6年2月28日(水)～令和6年3月11日(月)

#### 4. 調査方法

- ①就学前児童がいる保護者
- ②小学生児童がいる保護者

・郵送法(郵送による配布・回収)

- ③市内小学校に通う小学3年生の保護者
- ④市内小学校に通う小学3年生
- ⑤市内小学校に通う小学5年生の保護者
- ⑥市内小学校に通う小学5年生
- ⑦市内中学校に通う中学2年生の保護者
- ⑧市内中学校に通う中学2年生

・学校を通じた直接配布・郵送回収

- ⑨市内の子育て支援団体等

・メールによるWEB回答フォームQRコード及びURL送信・WEB回答フォームによる回収

- ⑩市内の保育所・幼稚園・認定子ども園・小学校・中学校・高校

・郵送による配布・郵送及びWEB回答フォームによる回収

#### 5. 回収状況

- ①就学前児童がいる保護者

学区	八幡	島	沖島	岡山	金田	桐原	桐原東	馬淵	北里	武佐	安土	老蘇	合計
調査件数	148	12	0	83	218	146	118	25	74	44	103	29	1000
有効回収数	65	5	0	40	102	70	53	7	31	13	52	9	447
回収率(%)	43.9	41.7	0.0	48.2	46.8	47.9	44.9	28.0	41.9	29.5	50.5	31.0	44.7

- ②小学生児童がいる保護者

学区	八幡	島	沖島	岡山	金田	桐原	桐原東	馬淵	北里	武佐	安土	老蘇	無回答	合計
調査件数	139	16	0	146	191	117	83	37	64	52	127	28	—	1000
有効回収数	65	5	0	59	74	44	36	19	27	15	50	10	4	408
回収率(%)	46.8	31.3	0.0	40.4	38.7	37.6	43.4	51.4	42.2	28.8	39.4	35.7	—	40.8

- ③市内小学校に通う小学3年生の保護者

学校	八幡	島	沖島	岡山	金田	桐原	桐原東	馬淵	北里	武佐	安土	老蘇	養野	養護	八日市	無回答	合計
調査件数	109	20	7	113	144	95	63	22	46	45	107	35	8	1	—	—	815
有効回収数	50	9	0	55	70	34	29	12	22	16	50	19	—	—	—	2	368
回収率(%)	45.9	45.0	0.0	48.7	48.6	35.8	46.0	54.5	47.8	35.6	46.7	54.3	—	—	—	—	45.2

※調査票は学校を通して配布しているため、野洲養護学校及び八日市養護学校が調査件数に入っていますが、回答は学区のみをたずねているため有効回収数には入っていません。

④市内小学校に通う小学3年生

学校	八幡	島	沖島	岡山	金田	桐原	桐原東	馬淵	北里	武佐	安土	老蘇	養野洲	養護	八日市	合計
調査件数	109	20	7	113	144	95	63	22	46	45	107	35	8	1		815
有効回収数	48	12	2	52	68	32	27	12	22	15	49	19	1	1		360
回収率(%)	44.0	60.0	28.6	46.0	47.2	33.7	42.9	54.5	47.8	33.3	45.8	54.3	12.5	100.0		44.2

⑤市内小学校に通う小学5年生の保護者

学校	八幡	島	沖島	岡山	金田	桐原	桐原東	馬淵	北里	武佐	安土	老蘇	養野洲	養護	八日市	合計
調査件数	124	18	2	103	152	101	64	21	54	28	112	22	6	1		808
有効回収数	72	7	0	46	63	45	24	13	20	12	67	9	—	—		378
回収率(%)	58.1	38.9	0.0	44.7	41.4	44.6	37.5	61.9	37.0	42.9	59.8	40.9	—	—		46.8

※調査票は学校を通して配布しているため、野洲養護学校及び八日市養護学校が調査件数に入っていますが、回答は学区のみをたずねているため有効回収数には入っていません。

⑥市内小学校に通う小学5年生

学校	八幡	島	沖島	岡山	金田	桐原	桐原東	馬淵	北里	武佐	安土	老蘇	養野洲	養護	八日市	無回答	合計
調査件数	124	18	2	103	152	101	64	21	54	28	112	22	6	1	—		808
有効回収数	68	10	0	46	63	39	26	14	20	11	65	9	2	1	1		375
回収率(%)	54.8	55.6	0.0	44.7	41.4	38.6	40.6	66.7	37.0	39.3	58.0	40.9	33.3	100.0	—		46.4

⑦市内中学校に通う中学2年生の保護者

学区	八幡	八幡東	八幡西	安土	兄弟社	近江	養野洲	養護	八日市	近江八幡市外	無回答	合計
調査件数	230	177	201	113	140	7	0	0	0	—		868
有効回収数	111	93	68	70	0	—	—	42	1			385
回収率(%)	48.3	52.5	33.8	61.9	0.0	—	—	—	—			44.4

※調査票は学校を通して配布しているため、野洲養護学校及び八日市養護学校が調査件数に入っていますが、回答は学区のみをたずねているため有効回収数には入っていません。

※同様に、近江兄弟社の有効回収数は八幡・八幡東・八幡西・安土・近江八幡市外に分散されています。

⑧市内中学校に通う中学2年生

学校	八幡	八幡東	八幡西	安土	兄弟社	近江	養野洲	養護	八日市	無回答	合計
調査件数	230	177	201	113	140	7	0	0	0	—	868
有効回収数	97	81	69	69	59	4	0	0	1		380
回収率(%)	42.2	45.8	34.3	61.1	42.1	57.1	0.0	—	—		43.8

⑨市内の子育て支援団体等

調査件数	有効回収数	回収率(%)
85	44	51.8

⑩市内の保育所・幼稚園・認定子ども園・小学校・中学校・高校

調査件数	有効回収数	回収率(%)
43	33	76.7

6. 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。



## II 調査結果のまとめと課題

## II 調査結果のまとめと課題

### 1. ニーズ調査のまとめと課題

#### ●保護者を対象とした調査

##### 【結果】

##### (1) お子さんと家族の状況について

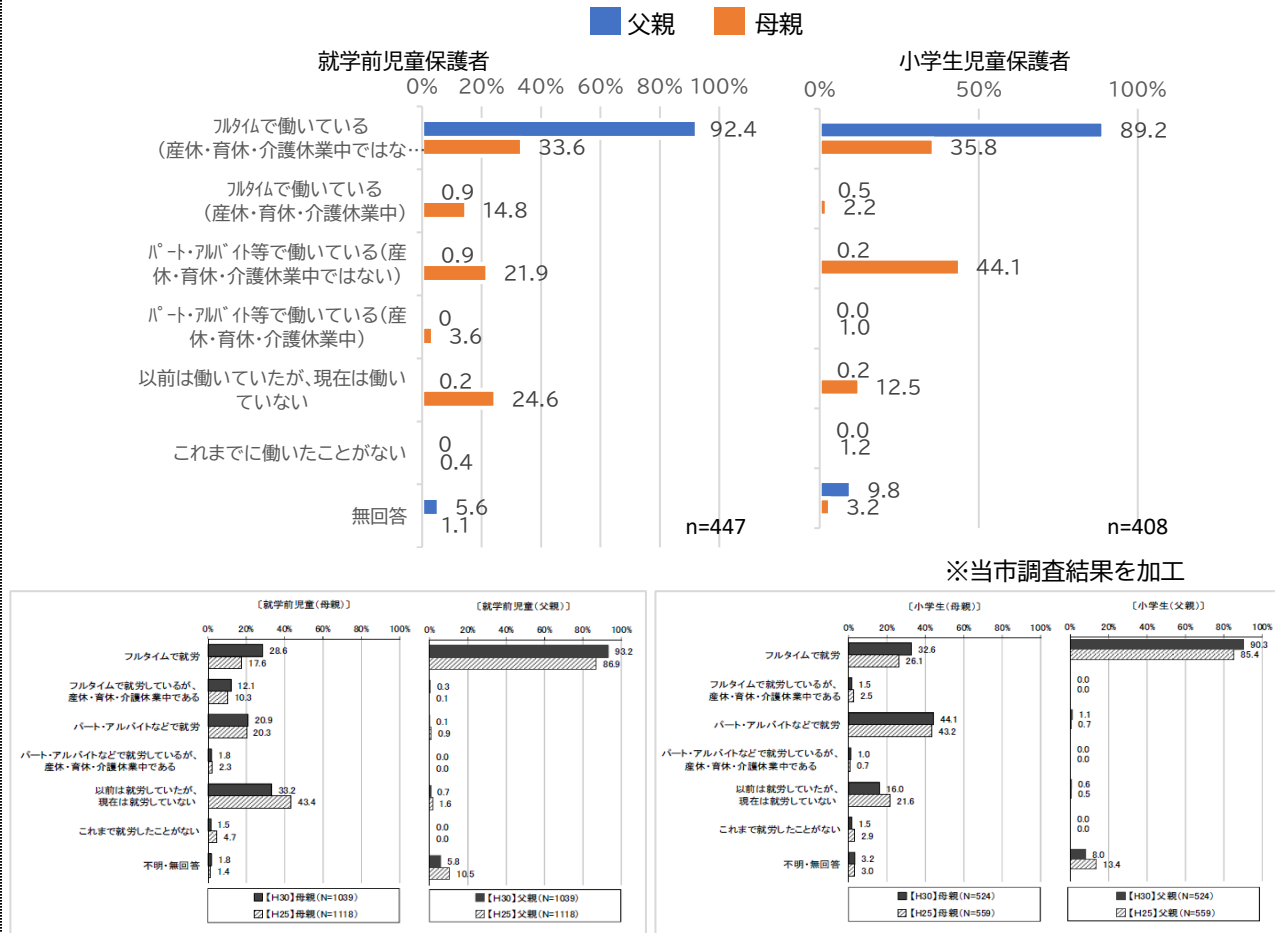
- 保護者の就労状況についての質問では、父親はいずれも、「フルタイムで働いている」が最も多く、母親については、小中学生保護者は「パート・アルバイト等で働いている」と答えた人が多くみられました。

#### 前回調査との比較

就学前児童保護者は、前回調査では、「以前働いていたが、現在は働いていない」と答えた人が最も多かったですが、今回の調査では「フルタイムで働いている」と答えた人が最も多くなっています。

#### 類似自治体との比較

近隣の東近江市で平成31年3月に実施された『東近江市 子ども・子育て支援に関するニーズ調査』では、父親はいずれも「フルタイムで就労」が多いですが、就学前児童の母親は「以前就労していたが、現在は就労していない」、小学生児童の母親は「パート・アルバイトなどで就労」と答えた人が多くなっています。



平成31年3月『東近江市 子ども・子育て支援に関するニーズ調査』より

#### 前回調査との比較

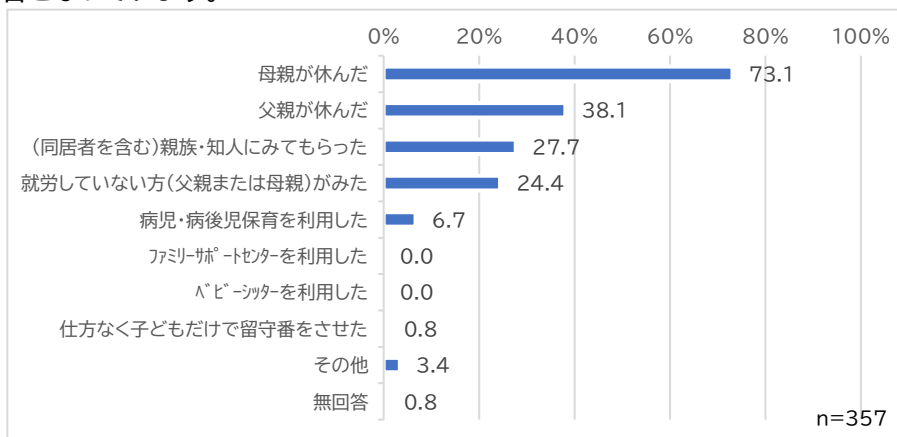
保護者の育児休業の取得についての質問では、就学前児童保護者では、父母ともに「取得した(取得中である)」と答えた人が、前回調査よりも増加しました。

(2)お子さんの病気等の時の対応について

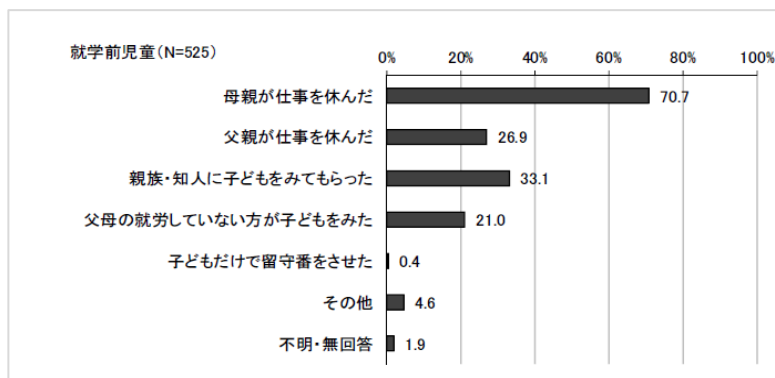
- この1年間でお子さんが病気やケガで幼稚園・保育所(園)や小学校へ行けなかったことがあると答えた人(就学前児童保護者79.9%、小学生児童保護者81.4%)へ、その時の対応方法をたずねる質問では、いずれも「母親が休んだ」の割合が最も高く、就学前児童保護者では73.1%、小学生児童保護者では75.9%となっています。次いで、就学前児童保護者では「父親が休んだ38.1%」、小学生児童保護者では「親族・知人にみてもらった28.3%」と答えた人が多くなっています

**類似自治体との比較**

前述の東近江市の調査では、就学前児童「母親が休んだ」70.7%、「父親が休んだ」26.9%で、いずれも当市の方が高い割合となっています。



※当市就学前児童調査結果を一部加工



平成31年3月『東近江市 子ども・子育て支援に関するニーズ調査』より

### (3)「放課後児童クラブ」等の利用について

- 就学前児童保護者(5歳児のお子さんがおられる方のみ)で「利用したい」と答えた人は低学年での希望は22.6%、高学年での希望は13.6%で、週あたり「5日」の利用を希望している人が多くみられました。何年生まで利用したいかについては「6年生まで」と答えた人が最も多く63.8%でした。

小学生児童保護者では、放課後児童クラブを利用している人は、「5日」の利用が最も多く、「小学6年生まで」の利用を希望している人が多くみられました。

小学3年生児童保護者、小学5年生児童保護者では、放課後児童クラブを現在利用している人は、小学3年生児童保護者で29.3%、小学5年生児童保護者で18.0%でした。

### (4)放課後の過ごし方について

- 放課後の過ごし方についてたずねる質問では、「自宅」と答えた人の割合が高く、次いで低学年では「放課後児童クラブ」高学年では「習い事、学習塾、スポーツ少年団など」が高くなりました。中学2年生生徒保護者では、「部活動(学校)」の回答も多くみられました。

### (5)子どもの権利について

#### ○ 前回調査との比較

「子どもの権利条約」(子どもの権利について、1989年に国際連合で採択され、1994年に日本でも守っていくことを約束した国際的なルール)について、6~7割ほどが「内容を知っている」「聞いたことがある」と答えました。前回調査では約55%であったため、今回調査の方が上回る結果となっています。

### (6)日々の子育てについて

- 市の取り組みについて、(1)周知状況、(2)利用状況、(3)今後の利用希望をたずねる質問では、(1)最も周知されている取り組みは、就学前児童保護者では「子育て支援センター」、小学生児童保護者では「市が発行している広報・情報誌」、(2)最も利用されている取り組みは、就学前児童保護者、小学生児童保護者とも「市が発行している広報・情報誌」、(3)最も今後の利用を希望されている取り組みは、就学前児童保護者は「市が配信しているホームページやSNS等」、小学生児童保護者は「市が発行している広報・情報誌」でした。

## 【課題】

### (1)お子さんと家族の状況について

#### ○ 前回調査との比較

保護者の就労について、前回調査時より母親の就労者が増えています。

「パート・アルバイト等で働いている」と答えた人にフルタイムで働く希望があるかをたずねる質問では、母親は、就学前児童保護者、小学生児童保護者とも、前回調査と同様「パート・アルバイト等で働き続けることを希望」と答えた人が最も多くなりました。「フルタイムで働く希望があり、実現できる見込みがある」と答えた人は、就学前児童保護者8.8%、小学生児童保護者9.8%で、前回調査の14.2%よりも5%程度低くなっています。

#### ○ 類似自治体との比較

保護者の育児休業の取得について、滋賀県で実施された、『令和3年版 滋賀県の労働条件(令和3年 労働条件実態調査結果報告書)』によると、過去1年間(令和2年4月1日~令和3年3月31日)の出産における、常用労働者の育児休業取得率は、男性13.2%、女性95.5%となっています。

当調査について、質問の対象をフルタイム就労者のみに絞り込んで集計したところ、育児休業を「取得した」と答えた人は、就学前児童保護者では、父親16.5%、母親89.8%、小学生児童保護者では、父親4.4%、母親65.2%と、就学前児童保護者の父親は滋賀県の調査結果よりも約3%高い値となりましたが、そのほかは、いずれも滋賀県の調査結果よりも低い値となっています。

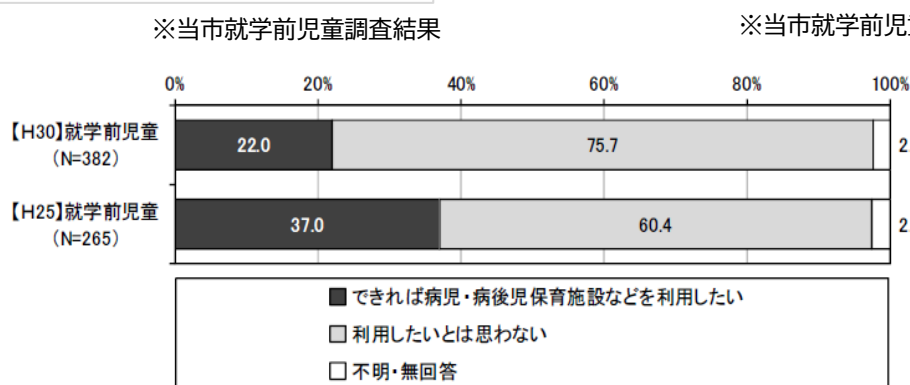
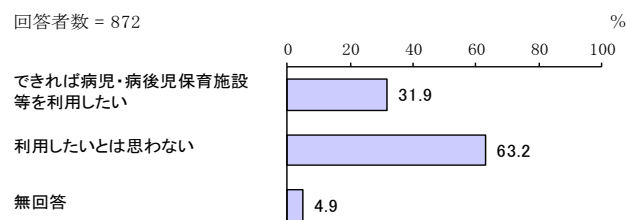
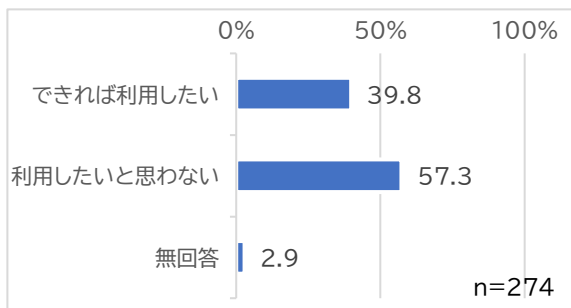
## (2) お子さんの病気等の時の対応について

### ○ 前回調査との比較

お子さんが病気等の時の対応で、「父親が休んだ」「母親が休んだ」のいずれかと答えた人が、「できれば病児・病後児のための保育施設等に預けたい」と思ったかについて、「できれば利用したい」と答えた人は、就学前児童保護者39.8%、小学生児童保護者21.9%で、就学前児童保護者については、前回調査と比べて約8%増加しました。

### ○ 類似自治体との比較

前述の東近江市の調査では、「利用したい」と答えた人は22.0%であり、当市の就学前児童保護者の割合は前回調査、今回調査とも東近江市よりも高い割合でした。



平成31年3月『東近江市 子ども・子育て支援に関するニーズ調査』より

## (3) 日々の子育てについて

- 市の取り組みについて、(1)周知状況、(2)利用状況、(3)今後の利用希望をたずねる質問で、(1)最も周知されていない取り組みは、就学前児童保護者では「教育相談室(マナビィ)」、小学生児童保護者では「子ども若者相談窓口」、(2)最も利用されていない取り組みは、就学前児童保護者では「教育相談室(マナビィ)」、小学生児童保護者では「子ども若者相談窓口」、(3)最も今後利用を希望されていない取り組みは、就学前児童保護者では「子ども家庭相談室(養育相談)」、小学生児童保護者では「子育て世代包括支援センター」でした。

## ●児童、生徒を対象とした調査

### 【結果】

- 回答者の性別は、小学5年生では男49.6%、女49.3%、中学2年生では男45.5%、女52.1%でした。
- 回答者の通っている小学校(中学校)は、小学3年生では金田小学校、小学5年生では八幡小学校が多く、中学2年生では八幡中学校が多いようです。

## 2. 生活実態調査のまとめと課題

### ●保護者を対象とした調査

#### 【結果】

#### (1)暮らしの状況について

- 家庭の暮らしの状況(経済的な面)についてたずねた質問では、小学生児童保護者で、苦しい(「やや苦しい」「大変苦しい」の合計)と答えた人が39.3%となりました。

小学生児童保護者は、前回調査と比較し、「普通」の割合が減り、苦しいが約10ポイント高くなっています。就学前児童保護者については、苦しいと答えた人が32.2%で、前回調査とほとんど変化はありません。

#### ○ 前回・前々回調査との比較

子育てに関する悩みをどのような人・機関に相談するかについてたずねた質問では、小学生児童保護者で、「配偶者」と答えた人が最も多く、前回調査で最も多かった「友人(子育て中の仲間等)や知人」を上回りました。就学前児童保護者は、前回調査と変動がなく、「配偶者」が最も多く、「父母、祖父母等の親族」が続きました。前回調査で、前々回の調査から減少した「近所の人」の割合は、さらに減少しています。

- 子育てに関する悩みを今後相談するなら、どのようなことを相談したいかについて、小学生児童保護者が今回はじめて調査対象となり、「子どもの学校生活」が最も多く、37.7%を占めました。その後、「学習の定着や発達」、「子育ての不安や悩み」が続きました。

#### (2)日々の子育てについて

#### ○ 前回調査との比較

子どもに対して、思わずたいたり、心を傷つけてしまうような言動をしたり、子どもの相手や世話をしないことがあるかについてたずねた質問で、就学前児童保護者は、「してしまいそうになることがあるが、行動にはほとんど移していない」と答えた人が、43.8%と最も多くなり、前回調査から約9ポイント増加しました。次いで「たまにある」が30.9%となり、前回調査から、約12ポイント減少しました。

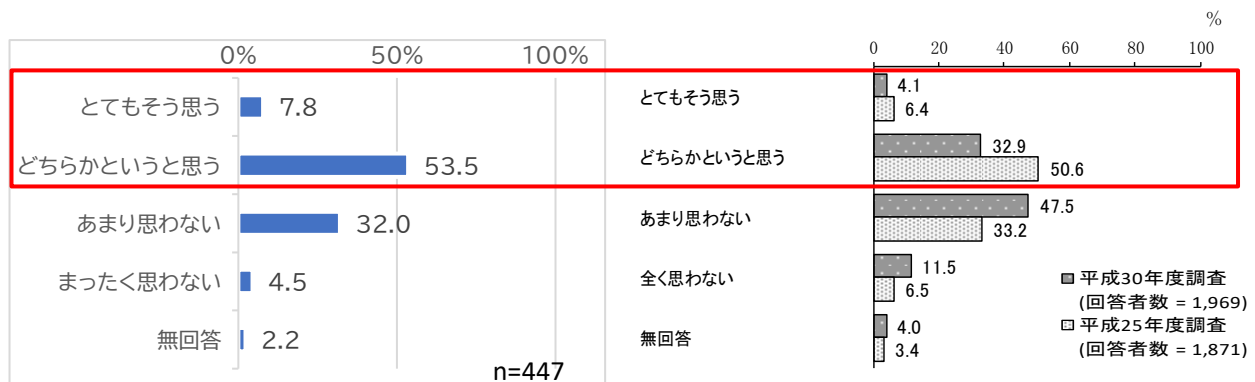
小学生児童保護者は、前回調査と順番に変動がなく、「してしまいそうになることがあるが、行動にはほとんど移していない」が最も多く、「たまにある」が続きました。

今回はじめて調査対象となった中学2年生の保護者は、「してしまいそうになることがあるが、行動にはほとんど移していない」が最も多く、「まったくない」が続きました。

- 近江八幡市は子育てしやすい環境であると思うかをたずねた質問で、就学前児童保護者は、「どちらかというと思う」と答えた人が最も多く、53.5%を占めました。また、「とてもそう思う」は、7.8%となりました。

#### 前回調査との比較

前回調査から思う(「とてもそう思う」・「どちらかというと思う」の合計)と答えた人が、約24ポイント増加しました。(左:今回調査結果、右:前回・前々回調査結果)



小学生児童保護者も、思うと答えた人が、前回調査よりも約12ポイント増加しました。

- 地域社会全体(地域・企業・学校・行政など)で見守られている、応援されていると思うかをたずねる質問で、思う(「とてもそう思う」「どちらかと思う」の合計)と答えた人が、就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに、前回調査から、5ポイント程度増加しました。

#### 前回調査との比較

地域や近所の方と付き合っているかをたずねた質問で、就学前児童保護者は、付き合っている(「よく付き合っている」「ある程度付き合っている」の合計)と答えた人が、57.0%となり、前回調査と比べ、約10ポイント減少しました。

#### 学年間の傾向

一方で、今回はじめて調査が行われた小学生児童保護者では、付き合っていると答えた人が、72.0%を占め、就学前児童保護者を大きく上回りました。

- 子育てをしやすいまちづくりのために、今後どのような取り組みの充実が必要かをたずねた質問で、就学前児童保護者・小学生児童保護者ともに、「子育てへの経済的支援の充実」と答えた人が最も多くなりました。

#### 前回調査との比較

ただし、就学前児童保護者は、前回調査と比較し、同回答が約16ポイント減少しました。(小学生児童保護者は前回調査を実施していない。)今回の調査では、「子育てしながら働きやすい職場環境への啓発」がどちらも2番目に多く、就学前児童保護者では、約9ポイント上昇しました。また、前回調査で5番以内に入らなかった「小児医療体制の充実」が、就学前児童保護者で3番目に多く、小学生児童保護者でも5番目に多い結果となりました。

#### 【課題】

- 子育てに関する悩みをどのような人・機関に相談するかについてたずねた質問では、「近所の人」の割合が、過去2度の調査よりも、減少しています。また、地域や近所の方と付き合っているかをたずねた質問で、就学前児童保護者では、関わっていると答えた人が前回調査と比べ、約10ポイント減少しています。こうした結果から、地域や近所との関係の希薄化がうかがえます。
- 子育てをしやすいまちづくりのための取り組みについて、「子育てへの経済的支援の充実」の必要性は最も高いままではありますが、割合としては減少しました。一方で、「子育てしながら働きやすい職場環境への啓発」と、「小児医療体制の充実」について5年前よりも、取り組みの充実が必要と考えている人が多くなっています。

## ●児童・生徒を対象とした調査

### 【結果】

#### (1)あなたのことについて

- 毎日が楽しいかどうかをたずねる質問と、自分のことが好きかどうかをたずねる質問では、楽しい(「楽しい」「どちらかといえば楽しい」の合計)と答えた人は、前回調査で90%以上、好き(「好き」「どちらかといえば好き」の合計)と答えた人は、前回調査で80%以上と、いずれも高い水準でしたが、今回は、小学3年生の児童・小学5年生の児童ともに、さらに増加しました。

#### ○ 学年間の傾向

将来の夢や、やってみたい仕事があるかをたずねる質問では、「ある」と答えた人が、小学3年生の児童・小学5年生の児童では最も多くなりました。前回調査を行っていない中学2年生の生徒は、小学生と傾向が大幅に異なり、「なんとなくある」が最も多くなり、「ない」も約21%と、小学生の約2倍となっています。

#### 前回調査との比較

小学3年生・小学5年生の児童で前回調査と比較すると、小学3年生の児童・小学5年生の児童ともに、「ある」と答えた人の割合が減りました。特に小学5年生の児童では、「ある」が約14ポイント減少しました。小学3年生の児童・小学5年生の児童ともに「なんとなくある」、「ない」の割合が増加しています。

- 困ったことや悩みがあるとき、相談したり、話を聞いてもらう人がいるかをたずねる質問では、小学5年生の児童の「いる」の割合が、前回調査の約7ポイント増加し、98.1%となりました。小学3年生の児童は、「いる」が86.4%、「いない」が3.6%とどちらも前回調査から減少しています。中学2年生の生徒は、「いない」の割合が、内閣府が令和2年度に実施した「子どもの生活状況調査」(対象は中学2年生生徒とその保護者)と比べ、約半数の4.2%にとどまりました。

#### (2)放課後児童クラブ(学童保育)について

#### ○ 前回調査との比較

放課後児童クラブの利用についての質問は、前回調査と大きな変動はありません。一方で、利用者のうち放課後児童クラブが楽しいかどうかをたずねる質問では、小学5年生の児童で楽しい(「楽しい」「どちらかといえば楽しい」の合計)と答えた人が98.5%と、前回調査から約12ポイント増加しました。

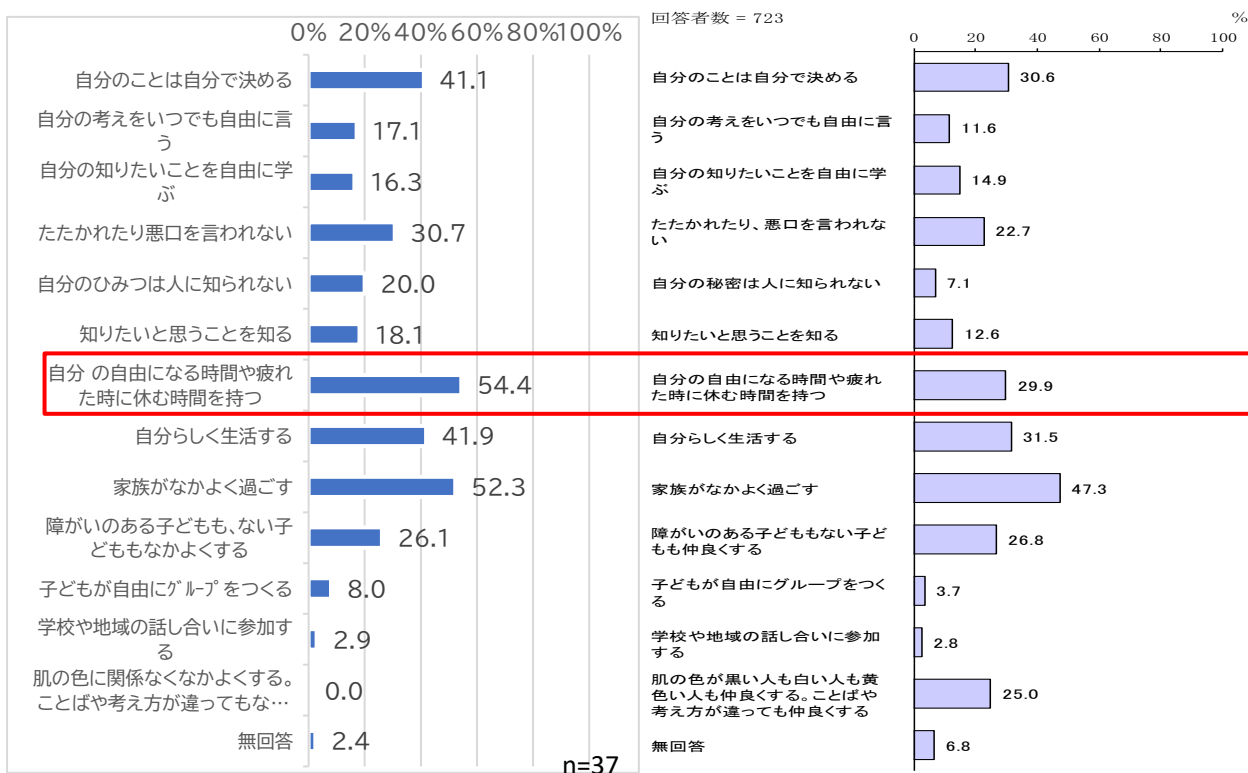


### (3)あなたが幸せに生活するために大切なことについて

#### ○ 前回調査との比較

あなたが幸せに生活するために、特に大切だと思うものをたずねる質問では、前回調査では、「家族がなかよく過ごす」が小学3年生の児童・小学5年生の児童ともに最も多かったですが、今回は、小学5年生の児童では、「自分の自由になる時間や疲れた時に休む時間を持つ」が、前回調査よりも、約24ポイント増加し、最も多い回答となりました。なお、「家族がなかよく過ごす」は約2ポイント差で続きました。中学2年生の生徒も、選択肢の文言は若干異なりますが、「疲れた心や体を休ませる時間や自分の自由になる時間を持つこと」が最も多い回答となりました。

(左図:今回調査結果、右図:前回調査結果)



※前回調査では、「子どもが幸せに生活するために大切なこと」という項目だったことに注意。

### (4)近江八幡市について

- 近江八幡市が好きかどうかをたずねる質問では、小学3年生の児童・小学5年生の児童ともに、「好き」が「どちらかといえば好き」を大幅に上回り、その合計も、約90%と前回調査と大きな変化はありませんでした。

#### 学年間の傾向

一方で、中学2年生の生徒は、小学生と傾向が大幅に異なり、「好き」が37.6%で、「どちらかといえば好き」が51.8%となりました。

- おとなになっても近江八幡市に住みたいかどうかをたずねる質問では、小学3年生の児童・小学5年生の児童ともに、住みたいと思う(「住みたいと思う」「どちらかといえば住みたいと思う」の合計)が約75%と前回調査と大きな変化はありませんでした。

#### 学年間の傾向

一方で、中学2年生の生徒は、小学生と傾向が大きく異なり、「住みたいと思う」が17.1%、「どちらかといえば住みたいと思う」が40.8%で、合計でも57.9%にとどまりました。

## 【課題】

- 将来の夢や、やってみたい仕事があるかをたずねる質問で、小学3年生の児童・小学5年生の児童ともに、「ある」が50%を超えているものの、「ある」の回答が前回調査と比較し、小学5年生の児童では、約14ポイント減少しました。「なんとなくある」、「ない」の割合が増加し、小学3年生の児童・小学5年生の児童ともに、「ない」が10%を超えました。  
中学2年生の生徒は、「ある」が27.9%、「なんとなくある」が50.5%、「ない」が21.3%と、異なる傾向を示し、「ない」が、小学生の約2倍となっています。
- 近江八幡市が好きかどうかや、おとなになっても近江八幡市に住みたいかどうかについてたずねる質問では、中学2年生の生徒は、小学3年生の児童・小学5年生の児童と傾向が大きく異なり、「好き」や、「住みたいと思う」といった、強い肯定の回答がどちらも小学生の回答の半数程度に減少します。  
特におとなになっても近江八幡市に住みたいかについて、「住みたいと思う」「どちらかといえば住みたいと思う」の合計が57.9%で、これは、当市が令和5年度に実施した、18歳以上を対象とした市民アンケートの「ずっと住み続けたい」25.9%、「どちらかといえば住み続けたい」44.3%、合計70.2%という結果よりも低くなっています。

### 3. 貧困対策に関する調査のまとめと課題

#### ●保護者を対象とした調査

##### 【結果】

#### (1)暮らしの状況について

- 「ひとり親世帯」に該当するかについてたずねた質問では、小学5年生児童保護者で8.5%が該当し、中学2年生生徒保護者では9.1%が該当しました。

#### (2)お子さんとのかかわり方について

##### ○ 学年間の傾向

子どもとのかかわり方について、すべての項目について、小学5年生児童保護者は、中学2年生生徒保護者「子どもの生活状況調査」と比較して、あてはまる(「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」の合計)が高い割合となっています。

##### ○ 国の調査との比較

「子どもの生活状況調査」と比較すると、あてはまる、が少なくなっています。特に「あてはまる」単独では、すべての項目で、下回っています。

#### (3)お子さんの将来について

- 子どもの将来の進学について、「大学またはそれ以上」が、中学2年生生徒保護者では55.3%となっており、「子どもの生活状況調査」と比較し、約5ポイント上回っています。
- 過去1年間における、欠乏についてたずねた質問では、小学5年生児童保護者・中学2年生生徒保護者でいずれも「どれもあてはまらない」が35%台で最も多くなりましたが、小学5年生児童保護者で3割以上が、中学2年生生徒保護者で2割以上が、「趣味やレジャーの出費を減らした」、「食費を切りつめた」、「新しい衣服・靴を買うのを控えた」と回答しました。

##### ○ 国の調査との比較

電気料金・ガス料金・水道料金についての未払いについて、本市では、小学5年生児童保護者・中学2年生生徒保護者いずれも0.5%でしたが、一方で、「子どもの生活状況調査」では、3%台となっており、本市は同調査と比較し、低い水準となっています。

- 最近の生活の満足度についてたずねた質問では、小学5年生児童保護者で、10段階のうち、平均「6.36」、中学2年生生徒保護者で、平均「6.64」となりました。

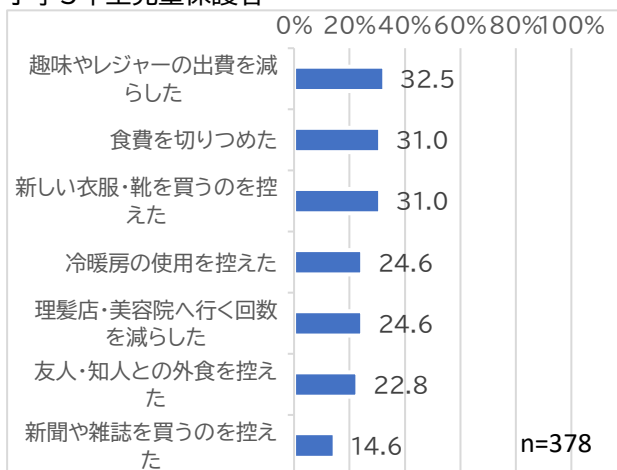
##### ○ 国の調査との比較

支援制度の利用についてたずねた質問では、「就学援助」を「現在利用している」と回答した人は、6.5%となりました。「子どもの生活状況調査」と比較し、約半数となっています。

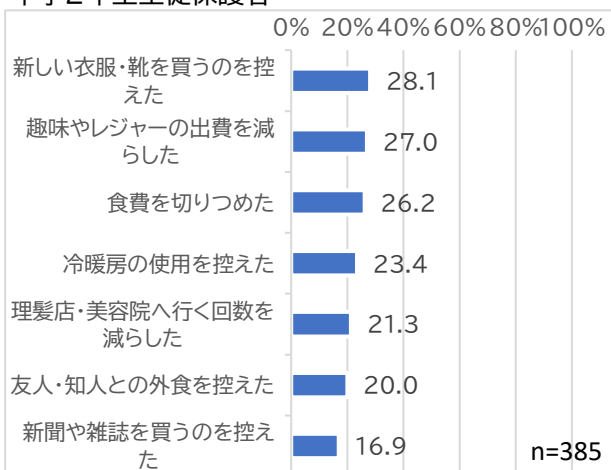
## 【課題】

- 子どもとのかかわりについて、当市の中学2年生生徒保護者では、あてはまる（「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」の合計）が、「子どもの生活状況調査」より総じて低く、中学2年生保護者よりもあてはまるの割合が高い小学5年生児童保護者でも、「子どもの生活状況調査」の、項目のうち、「お子さんに本や新聞を読むように勧めている」や、「PTA活動や保護者会、放課後学習支援等ボランティアなどへ参加している」などで、下回っており、全国よりも子どもとのかかわりについて不足している可能性がみられます。
- 過去1年間の欠乏状況について、「電気・ガス・水道などが止められた」、「医療機関を受診できなかった」など、直ちに生活に影響を及ぼす項目についての回答は少ないですが、上述した買い控えや切りつめなどを中心に17項目のうち7項目で、小学5年生児童保護者・中学2年生生徒保護者のいずれも10%を超える方が該当しています。

小学5年生児童保護者



中学2年生生徒保護者



※調査結果グラフを加工

- 生活の満足度について、中学2年生(生徒)は「7.49」となっており、保護者の生活満足度が低く、子どもとの間で、乖離があることが分かります。
- 支援制度の利用についてたずねた質問で「就学援助」を「現在利用している」と回答した人は6.5%ですが、滋賀県内の就学援助率は令和元年度で12.1%(全国平均14.5%)のため、本調査の結果は、著しく低いことが分かります。当市における実際の就学援助率は不明ですが、制度が浸透していない可能性があります。

## ●児童・生徒を対象とした調査

### 【結果】

#### (1)あなたのふだんの生活について

- 学校の授業で分からないところがあるかたずねる質問で、小学5年生では、わかる（「いつもわかる」・「だいたいわかる」の合計）と答えた人が、60.6%を占めました。

#### 学年間の傾向

- 一方で、中学2年生ではわかると答えた人が、45%で、小学5年生から中学2年生にかけて、わかると答えた割合が、約15ポイント減少しました。
- 食事の回数についてたずねる質問で、小学5年生では「朝食」を「毎日食べる(週7日)」と答えた人が、87.7%を占めました。  
一方で、中学2年生では、79.2%で、小学5年生から中学2年生にかけて、約9ポイント減少しました。

### ○ 国の調査との比較

居場所等の利用についてたずねる質問で、小学5年生・中学2年生いずれも「子どもの生活状況調査」と比較し、「子ども食堂など」、「勉強を無料でみてくれる」、「何でも相談できる場所」について、「利用したことがある」と答えた人が、上回っています。特に「子ども食堂など」は中学2年生が9.5%となっており、「子どもの生活状況調査」の2.8%を約7ポイント上回り、小学5年生は16%と、中学2年生からさらに約7ポイント高くなりました。(子ども食堂については、滋賀県の設置数が多いことが影響している可能性がある。)

中学2年生は、全ての項目で「あれば利用したい」と答えた人が、「子どもの生活状況調査」よりも、上回っています。

- 家族のお世話をしているかについてたずねる質問で、「している」と答えた人が、小学5年生では21.9%、中学2年生では、14.5%となりました。令和2年度の厚生労働省の調査では、中学2年生で5.7%であり、結果に乖離があります。同調査では、お世話の対象として、「きょうだい」が群を抜いて多いですが、今回の調査では、「父親」「母親」の比率が同調査よりも多いため、一般的なお手伝いについてもお世話として認識された可能性があります。

### ○ 国の調査との比較

最近の生活の満足度について、中学2年生は平均で、「7.49」となりました。「子どもの生活状況調査」では、「6.89」であったため、当市の生徒の生活の満足度は、約0.6点高いことが分かります。  
〔「子どもの生活状況調査」は、令和2年度のコロナ禍での調査であったことに考慮は必要〕

## (2) 将来について

- 将来どの段階まで進学したいかについてたずねた質問では、当市の中学2年生と「子どもの生活状況調査」の傾向は、ほぼ同じとなっていますが、当市は「まだわからない」の回答が、約8ポイント多くなっています。

また、将来の進学段階についての選択の理由については、クロス集計で詳細に明らかにしますが、当市では「希望する学校や職業があるから」が47.8%で最も多く、次いで「親がそう言っているから」が24.3%となっています。「子どもの生活状況調査」では、「希望する学校や職業があるから」が53.9%で最も多く、次いで、「自分の成績から考えて」が18.9%となっています。

## 【課題】

- 週にどのくらい食事をしているかについて、中学2年生では「毎日」と答えた割合が、「子どもの生活状況調査」と比べ、「朝食」で約3ポイント、「夏休みや冬休みなどの間の昼食」で約2ポイント下回っており、当市の中学2年生の食習慣について、全国と比べ、少し低いことが分かります。
- 居場所等の利用について、中学2年生・小学5年生いずれも「勉強を無料で見てくれる場所」や「子ども食堂など」で「あれば利用したい」が、「今後も利用したいと思わない」を上回っており、上述したように、「子どもの生活状況調査」と比較しても「あれば利用したい」の回答が多いことと合わせて、居場所等へのニーズが高いことが分かります。
- ヤングケアラーの実態について、クロス集計や、本調査以上により詳細な調査は求められますが、お世話を「している」と答えた人が、小学5年生では21.9%、中学2年生では、14.5%となり、いずれも、約35%が「ほぼ毎日」と回答しています。また、「病院の付き添い」、「身体的な介護」、「通訳(日本語や手話など)」を回答した人もいたため、一定数のヤングケアラーが当市にもいる可能性があります。